

千住・足立の
文化遺産展

後期

狩野派・谷派

絵師たちの残した模写・絵手本

狩野派の 絵手本は うまい。

2026

2/14^{SAT} ~ 4/12^{SUN}

足立区立
郷土博物館



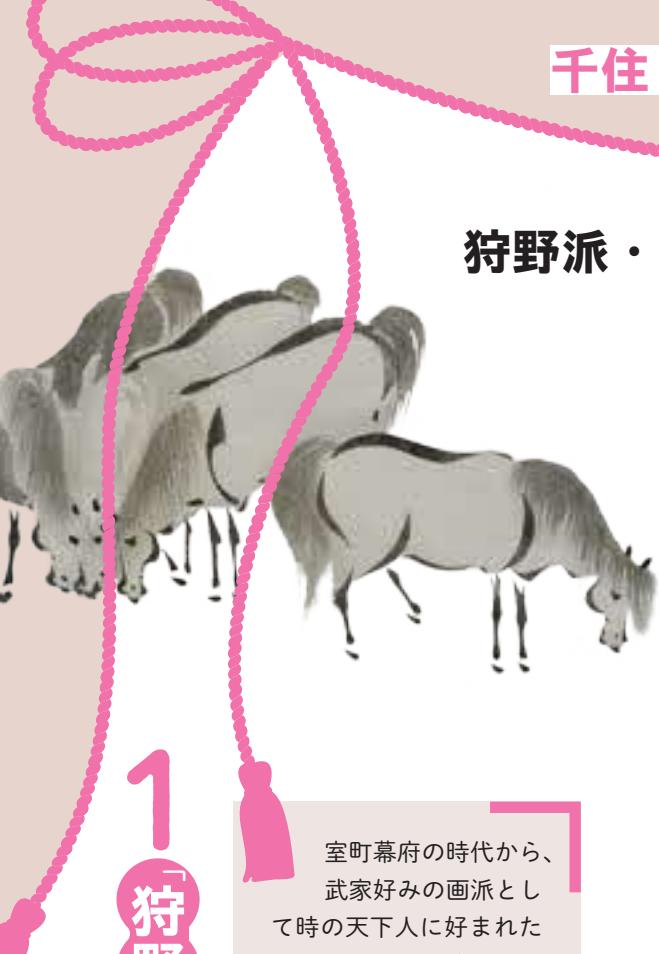
ADACHI CITY MUSEUM
足立区立郷土博物館

足立区

左 原本：狩野常信 粉本「百馬図」(当館蔵/石出家資料) 右 船津文潤 粉本「百馬図」(当館寄託/船津家美術資料)



狩野派・谷派 絵師たちの残した模写・絵手本



1 「狩野派」天下人に愛された絵師集団

室町幕府の時代から、武家好みの画派として時の天下人に好まれた狩野派は、江戸時代においても徳川家に愛され、その勢力は全国に広がりました。

千住の掃部新田の開発人だった石出家には、江戸時代中～後期の町狩野（町場で活動する狩野派の絵師）である高田円乗の肉筆画や、円乗によつてもたらされた狩野派の粉本等が伝来しています。

模写

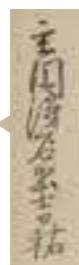


▲幸福や長寿を象徴する福禄寿を描いた図

粉本「福禄寿図」

原本：不明
模写：不明
寛政～文化（1789～1818）頃

修練のために描かれた模写絵です。模者もしくは持ち主として「主円得石出吉祐」と書かれており、円乗に師事して「円」の一字を引き継ぎ、「円得」を名乗った石出吉祐なる人物がいたことがわかります。



主円得石出吉祐

粉本「黄安図」

原本：狩野常信
模写：高田円乗
寛政～文化6年（1789～1809）頃

絵手本



▲古代中国の仙人黄安を描いた図

狩野派の絵師、狩野常信*の作品を高田円乗が写したもので、右に「円乗画之」と書かれていることから、絵手本として円乗が石出家に伝えたものであるとわかります。

*狩野常信…江戸時代前期、幕府に仕えた御用絵師



円乗画之

主石出氏



2 「谷派」 谷文晁を頂点とする文人たちの一大門派

関東文人の拠点的地域となる江戸下谷（現在の台東区）に生まれ、様々な画法を学んだ文晁は、多くの文人に支持されました。

上沼田村（現在の足立区江北）の大農家 舟津文済もまた、谷文晁に絵を学んだ一人でした。舟津家には、文済自身の絵師としての活動の記録や資料のほか、文晁の画塾兼アトリエ「写山楼」の膨大な粉本類が伝来しています。

粉本「隨身庭騎図」模写

原本：谷文晁
模写：舟津文済
嘉永元年（1848）

文済が師・谷文晁の作品を写したもの。文晁や谷派絵師以外の作品の模写も残っており、文済の柔軟な学びの姿勢がうかがえます。



▲徒歩の警備（隨身）と、騎馬の警備（庭騎）を描いた図

縮図帳（部分）

舟津文済
江戸時代後期



図案集・資料集



文済が様々なものを模写・写生した、全6冊に及ぶ資料集です。文済自身の構図メモのほか、当時の木版物（摺物）なども収められています。

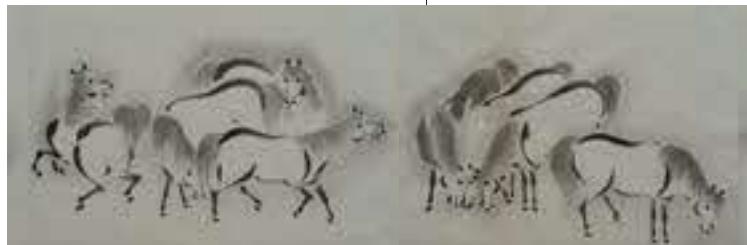
左) 扇面の図案
右) 摺物のスクラップ

3 「粉本」 様々な目的や使われ方

画題が同じ「馬」でも…

「粉本」は、手本や資料、下絵、模写などの総称です。同じ画題を描いたように見えて、流派の画風を学ぶための絵手本、自身の修練のために描いた模写など、作成の目的は様々です。

手本として作られた粉本



▲簡略な筆線で、多種多様な姿勢、角度で80頭以上の馬が描かれている。

【狩野派】 粉本「百馬図」(部分)

原本：狩野常信
江戸時代後期

粉本のひとつに、画法習得のための手本や図案集があります。本資料も、筆の運び方や馬の全身、部位などの形状を学習するための絵手本として、高田円乗により石出家に伝えられました。

修練の中で作られた粉本

【谷派】 舟津文済 粉本「百馬図」 | 文政11年（1828）

絵師が修練のために描いた図画（模写含む）や、作品の下書きなども粉本に分類され、絵師がどのような画題に取り組んでいたかなどがわかります。また、すでに消失してしまった作品の下書きなどは大変貴重な記録です。本資料も、文済が学習のために描いたものと推察されます。



▲様々な毛色、模様の馬が、ひしめくように描かれている。

初公開

【谷派新発見資料の特別展示】

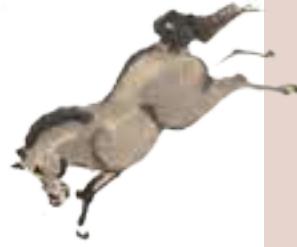
企画展の開催を記念して、近年新たに発見された作品を特別公開します。



たに ぶん ちょう しゅ えん ず
谷文晁 酒宴図 (当館蔵)

楽し気な酒宴の様子が描かれています。谷文晁は自身も参加した「千住の酒合戦」*の様子を絵巻に残しており、本作は、その絵巻物と同じ構図で描かれています。酒宴という画題が文晁の中で確立され、本作の制作に繋がったと推察されます。

*文化12（1815）年に千住の飛脚問屋の隠居中屋六右衛門の還暦祝いの余興として酒の飲み競べが行われ、その様子は文晁ら参加者によって絵や詩となって記録されました。



たに ぶん じ ふな つ ぶん えん
谷文二・船津文済ほか 百馬図 (部分) (個人蔵)



▲描き手それぞれの画風で様々な馬が描かれている。

谷文二（谷文晁の子）、船津文済などの谷派絵師と、谷派と親交のある文人たちが寄せ描きした百馬図です。文済は、師である文晁の一族とも深く交流し、文晁死後も文二、二世文一（文晁の孫）たち文晁一族とのつながりは続きました。本作も、文済と谷派絵師との交流の結果制作されたことがうかがえます。

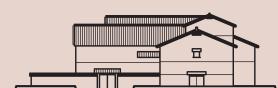


明治時代から続く美術研究誌『國華』

令和5（2023）年、日本・東洋美術専門の研究誌『國華』において、「特輯 千住・足立の文化遺産」が組まれ、平成24（2012）年から実施してきた足立区文化遺産調査で明らかとなった足立の美術文化が紹介されました。本展は、『國華』に掲載された資料を中心に構成しています。

『國華』(2023年5月発行1531号表紙)

明治22（1889）年、美術指導者、岡倉天心によって創刊された日本・東洋美術専門の研究誌で、現在も刊行されている世界最古の美術研究誌。



ADACHI CITY MUSEUM
足立区立郷土博物館

開館時間 午前9時～午後5時（最終入館は午後4時30分）

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日に休館）

入館料 一般200円（高校生以上） 団体（20名以上）は半額
※70歳以上の方、障害者手帳保持者およびその介助者1名は無料
※毎月第2・3土曜日は入館無料

交通案内 JR亀有駅北口、東京メトロ千代田線北綾瀬駅、つくばエクスプレス八潮駅南口よりバス。無料駐車場あり。

所在地 〒120-0001
東京都足立区大谷田5-20-1

電話番号 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562

